

北九州市の文化財を守る会

会報

No. 47 59.5.1

発行 北九州市の文化財を守る会

北九州市小倉北区鍛冶町一丁目7-2内
森鷗外旧居
電話 (093) 531-1604

印刷 コトブキ印刷

北九州市小倉北区昭和町15-1
電話 (093) 931-6191

先ず会長加瀬康作氏より開会のあいさつがあり、米津副会長が総会議長に選ばれ議事に入りました。最初に石崎事務長に依る事業報告及び会計報告、引続き大神監事に依る監査報告を行い夫々承認を受けました。後欠員中の八幡東支部長に熊井邦彦氏を委嘱し、今年度の事業計画及び予算を可決後、市教育委員会今年度制作最新の映画「北九州の民俗行事」を鑑賞し深い感銘の後に無事総会を終了致しました。以下報告及び審議内容の主なる点は、左記の通りであります。

事業報告の部
規約第四条に定める事業即ち

1. 文化財の保存、保護
2. 理解を深める為の啓蒙運動
3. 地域愛護団体の育成
4. 其の他必要な事業

の内特に二、三項に関し全く云つて良い程活動がなされて居ない点を反省。

「文化財保存対策に就いて」七月廿一日支部長、常任理事合同会

議を行い左記の協議を行った。

- 一、史跡保存を適正に
一八幡畑城跡の早急な調査
史実の考証
一八ツ橋検校の建碑や黒崎城の所謂「復元」の問題
- 二、行政当局は各部署間の連絡を密にし、文化財の保全に万全を期す可である。
- 三、都市再開発に際し文化財の保存に充分留意せらる可である。(例えば小倉駅前再開発の場合の永照寺の問題)
- 四、平尾台の指定地域の保全に充分な注意と自然が守られる様な綿密な配慮が必要。
以上を八月廿六日市長、教育長に対する要望として文書に取りまとめ、各支部長出席の上加瀬会長より(市長入院中のため)浜田助役へ渡しました。

「文化財の保存を話す会」二月十二日、当会役員に市文化財保護

審議会委員の各位にも御参加頂き、埋蔵文化財調査室員及び市教委文化課の係長と個別に事情を聴取し、その結果後日市長に、特に日の出町の遺跡破壊に鑑み、今後同様ケースが生じない様、充分の注意方要望致しました。以上の事は去る三月三十一日付会報号外の報告する通りであります。会報四十六号に記載を洩らした点は事務局のミスに依るもので、当総会に於て重々陳謝の意が表明されました。

尚、会報の発行及びバスに依る文化財めぐりは別表に掲げます。

会計報告の部
収支の明細は別表の通りであります。会費の徴集に未納が意外に多く、事務局の措置は大いに反省の要がある旨報告がありました。

当年度事業計画
事業報告に申述べた如く、「啓蒙運動」と「地域愛護団体の育成」に努力する事とし何らかの具体策を執る、就中予ねて懸案の文化財マップの件に関し、特に事後の経過に関し質問があり事務局としては今迄の状況を確め、何らかの対処をする事に決定した。

予算に関して
会費徴集に関し意を用い、特に前年度未納会費の整理に努力し、過年度会費を収入予算に一三万円計上しました。以上

昭和59年度 会報発行予定			
No.47	4頁	5月1日	事務局
No.48	8頁	8月1日	戸畑支部
No.49	8頁	10月1日	八幡西支部
No.50	8頁	2月1日	八幡東支部

<バスに依る文化財めぐり>

第28回	5月20日	宇佐方面	戸畑支部
第29回	10月21日又は28日頃	?	八幡西支部

バスによる文化財めぐり

主な見学先

東光寺
柳ヶ浦駅から南に約一分、東光寺がある。東光寺の本山は耶馬溪の羅漢寺で曹洞宗。小寺だが本堂裏に五三八体の石仏羅漢像がまつられていることで有名。同寺の一五代玉峰道林和尚が幕末のころ

世人のくるしみをすくうために石工覚兵衛にほらせたもの。

歴史民俗資料館

古代建築のイメージをモチーフとして建築された歴史民俗資料館には、熊野磨崖仏の大日如来像をはじめ、国東半島の六郷満山文化や、宇佐地方の考古・古代寺院・



第二十八回バスに依る文化財めぐりは宇佐附近を戸畑支部長福田先生の御世話で、左記の様に実施致します。会員皆様の多数御参加をお願い致します。

日時 五月二十日(日)

参加資格 本会々員

参加料 一人につき三千三百円

募集人員 四十五名(先着順)

締切日 五月十六日

申込方法 参加料を添え事務局まで(電話での予約も可、ただし参加料は締切日までに納入のこと)

申込先 小倉北区鍛冶町一丁目 森鷗外旧居内 五三一―一六〇四

集合場所 若松区役所 八時

昼食 小倉駅北口前広場 八時三〇分

帰着 宇佐神宮にて、一時間半の自由行動時間を見ておりますので附近休憩所又は食堂で適宜お済し下さい。

十八時三〇分〜十九時の見込



宇佐神宮をはじめ宮迫坊中跡や御許山などの神宮関係の諸史跡と古代宇佐氏の聖域とみられている川部・高森の両古墳群をむすんで大分県立宇佐風土記の丘が建設された。南宇佐の市街地から北西にのびる川部・高森線の約二キロ下流にある川部原で史跡公園内にとり入れられるおもな古墳は高森地区の赤塚古墳と角房古墳、川部地区の車坂古墳・福勝寺古墳・免ヶ平古墳・鶴見古墳だ。これらのうち赤塚古墳は四世紀中葉をくだらないもので、九州最古の古墳のひとつとして知られている。盗掘されたがここから出土した三角縁神鏡五面は、中国の三国時代の魏鏡といわれ、邪馬台国の女王卑弥呼が魏王からおくられた鏡と同種の鏡といわれている。免ヶ原古墳からも同種の鏡が一面出土している。この古墳の内部は五メートルの堅穴式石室だ。車坂・角房古墳も前方後円墳。墳丘の一部が失われているが、五世紀末から六世紀初めのもの、鶴見古墳も前方後円墳で内部構造は横穴式石室で、六

大楽寺は南宇佐字桐井にあり、国道一〇号線をへだてて宇佐八幡の北に位置している。真言宗高野山派、鎌倉末の元亨年間(一四世紀)に後醍醐天皇の勅願により宇佐氏の末えい到達公連が建立したという。仏像は平安時代のものが多い。同寺はもと宇佐市柳ヶ浦の江島、日輪寺の裏側にあつたといわれ、鎌倉末に現地に移転したものと考えられている。本尊木造弥勒如来坐像(重文)は寄木造の結跏趺坐像で、像高一・四三メートル。このほか



大楽寺弥勒菩薩坐像

世紀に比定されている。これらの古墳群は四世紀中葉ごろから六世紀後半ごろまでのもので、ほぼ同一地域にあることは、「古事記」や「日本書紀」にみえる菟狭津彦や菟狭津媛、さらには「旧事記国造本記」にみられる宇佐国造などのうさ氏につらなる一族の首長が代々築造した古墳だろうとみられている。これらの古墳群は史跡公園風土記の丘の散策道路でむすばれている。



文化財マップ作成に就いて

総会報告の中で触れましたマップの件は、後日事務局の文化課の方にたずねました所引接ぎ書類の中に各支部より出されました一覧表がありました。又一方市の別の機関等で一部重複するやのプランも準備されて居る模様であり、何れ役員会で御討議頂き度と思つて居ります。その場合当然次の点の御決定を頂く事になると思ひます。各支部よりの表を素材とし

- 一、採録の基準は予め定めるや
- 二、マップの体裁、規模
- 三、発行の部数
- 四、以上の予算見積り及び頒布の有料、無料、価格、等々

昭和58年度決算報告

Table with columns for '収入の部' (Income) and '支出の部' (Expenditure), including sub-headers for '予算額' (Budget) and '決算額' (Actual). Rows include '会費' (Membership fees), '雑収入' (Miscellaneous income), '利子' (Interest), and '前年度繰越金' (Carryover from previous year).

昭和59年度予算

Table with columns for '収入の部' (Income) and '支出の部' (Expenditure), including sub-headers for '予算額' (Budget) and '決算額' (Actual). Rows include '会費' (Membership fees), '雑収入' (Miscellaneous income), '利子' (Interest), and '前年度繰越金' (Carryover from previous year).

バス・ツアー収支明細

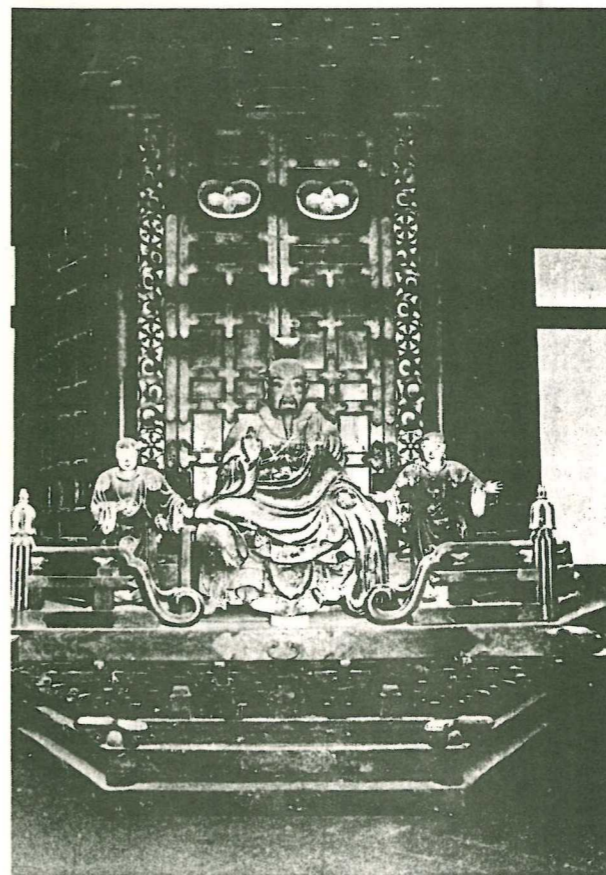
Summary table for bus tour expenses, showing '収入' (Income) and '支出' (Expenditure) for two different tours, with a '残高' (Balance) column.

県指定有形民俗文化財

輪蔵一棟

付経蔵

昭38・1・16指定
小倉北区京町三丁目4番25号
永照寺



輪蔵は大蔵経(一切経、または蔵経ともい、経・律・論の三蔵とその注釈を含めた仏教聖典の総称)を収納する大きな書架である。中央に軸があり、これを回転させて必要な経典を引き出す仕組みになっており、また輪蔵を一回転することにより大蔵経読経の功德を得るとされ、中国の僧・傳太士(四九七~五六九)が創始したものである。このため、後に輪蔵を造るものは傳太士とその子の普建童子、普成童子の三尊像を安置することになった。

八〇センチ、高さは三五〇センチあり、経蔵の天井の梁に木枠組みで吊られている。輪蔵の正面には傳太士、右に普建童子、左に普成童子が安置されている。永照寺の「蔵経記」によれば、同寺の九世西恩が大蔵経の所蔵を発起したが途中で没したため、十世西従がこれを継承し、享保四年(一七一九)十二月、筑前国鞆郡下境村(現在の直方市大字下境)光福寺の住職・泰峰が西従の依頼で京都にのぼり、鉄眼版大蔵経(黄檗僧・鉄眼道光が延宝六年(一六七八)に翻刻)を購入し、大工に輪蔵を造らせ、傳太士と両脇侍は仏師・康円に彫らせ、翌年三月こ

街のほとけ

野の仏と云ふ
言葉はあるが

米町公園と云えば、小倉北区の中でも駅前附近の最近では、ビル群の中に永照寺と並んで辛じて残る緑のスポットである。昨年の夏、戸畑支部長の福田先生が事務局所在の鶴外旧居にお出の節、全公園の六地藏石幢は当市内には珍しいと(大分県国東地方には多い)教示頂いた。恥しい話だが、私は公園の近くで生れ、今日迄住んでいるものであるが、その希少性に就いては知らなかった。数年前、全公園整備の打合せ会には出席し、その地藏さんを含め移転撤去等を論議した記憶がある。幸にも地藏堂をお世話する人々の意見で現状の俣保存されているが、若しあの話が通れば二百年の風雪に耐えた街の文化財が一つ、又消滅しかねない場合であった。何か考えさせられる話である。(石崎生)

事務局だより

◆会報四十七号をお届け致します。総会報告とバスによる文化財めぐりを主題に致しました。次回は戸畑支部にお願いの予定です。バスのお世話に引き続き大変とは存じますが、よろしくお願い致します。◆会費の納入は、報告の中で触れました様に前年度は香しくありませんでした。今年度は是非宜しく御願ひ申し上げます。尚、前年度未納の方は同封振替用紙御使用の場合、金額御訂正の上御利用下さい。又、若松支部の方は先号御案内の通りマルミツ眼鏡店光安様の御好意に依り、お取扱い頂きますので御利用下さい。

八幡東支部長交替

従来八幡東支部長としてお世話願って居られた本松馨氏が、御都合で小倉南区へ移転されましたので、その後任として熊井邦彦氏に御願ひする事になりました。